

第 38 回建設業経理士 1 級原価計算 解答速報

〔第 1 問〕 解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。
問 1

建設業の生産現場は期間有限の個性をもったものであるため、その原価管理は工事別に設定される実行予算を中核として実施される。第一に、工事別☆、その機能は次のようにも参加められ達成可能な目標として編成されることとなる☆。次に、期し及びコスト・コントロールの出发点となる☆。次に、工事別実行間予算で設定された目標利益を達成する必要があるため、工事別実行予算によって個別工事の利益目標が確定される☆。最後に、実利益計画の具体的達成を果たす基礎となる☆。最後に、実行した予算は管理責任区分と明確に対応する形で編成されるため、責任会計制度を効果的に進める手段となる☆。

問 2

建設業において顧客ライフサイクル・コストを測定することの意義は、請負金額でなく同コストにもとづいて建築物のライフサイクル・コストは、むやみに建設コストを下げることが賢明な方法とされ、おらず、使用コストに影響を及ぼす要因である形状や材質などが決まる計画・企画段階で説得力のある数値と顧客に訴え、建築物の仕様に反映させる必要がある☆☆。

予想採点基準

☆の前の文の内容が正解で加点
☆…2 点×10＝20 点

〔第2問〕

記号(A～C)

1	2	3	4	5
B	C	A	A	C
☆	☆	☆	☆	☆

予想採点基準

☆…2点×5=10点

〔第3問〕

問1

予定配賦額

34,425,000 円 ☆

予算差異

160,000 円 ★ 記号(A又はB) B ★

操業度差異

750,000 円 ★ 記号(同上) B ★

問2

予定配賦額

35,437,500 円 ☆

操業度差異

262,500 円 ☆ 記号(A又はB) A ☆

問3

予定配賦額

36,855,000 円 ☆

操業度差異

1,680,000 円 ☆ 記号(A又はB) A ☆

予想採点基準

☆…2点×7=14点

★…1点×4=4点

合計 18点

〔第4問〕

問1

月間営業利益

5,200,000 円 ☆☆☆☆

問2

(1)

C製品

75 個 ☆★

D製品

90 個 ☆★

(2)

月間営業利益

3,175,000 円 ☆☆

予想採点基準

☆…2点×8=16点

★…1点×2=2点

合計 18点

〔第 5 問〕
問 1

完成工事原価報告書			
自 20X0年7月 1日			
至 20X0年7月31日			
X 建設工業株式会社			
(単位：円)			
I. 材料費		1,660,600	☆☆
II. 労務費		1,312,000	☆☆
(うち労務外注費	451,000	)	☆
III. 外注費		441,000	☆☆
IV. 経費		756,700	☆☆
(うち人件費	414,700	)	☆
完成工事原価		4,170,300	☆

問 2

1,029,050	円	☆☆
-----------	---	----

問 3

① 重機械部門費予算差異	9,200	円 ☆	記号(A又はB)	A	☆
② 重機械部門費操業度差異	10,500	円 ☆	記号(同上)	B	☆

予想採点基準
☆…2点×17＝34点